

## 近況

英国海外貿易総省  
(ジェットロ長期専門家として派遣)の任務を終えて、いま次の段階に移りつつあります。履歴としては商工中金で東京・ニューヨーク勤務の後、オックスフォードでDPh i、世界銀行などを経て、英日間の貿易・投資に携わってきました。

## 異文化を理解し協力点を模索

地球環境平和財団・運営委員(欧州代表)  
(前英国海外貿易総省・上級貿易アドバイザー) 小松啓一郎



活動内容はいろいろ変わりましたが心の中には常に一貫したテーマがあり、国家間あるいは異文化の接点での誤解や誤訳、共通点と相違点を考察し、ものの見方は一つではないことを認識して、それぞれの価値をお互いに理解し認め合いながら一致協力できる点を常に模索したいと思っています。例えば世銀の仕事は金融業務とともに外務省という外交に近い側面があります。途上国に資金を貸す際、将来の返済が可能かを検討しますが、そのために現地政府の将来の税収予測をする必要があります。更に溯って産業開発の状況を把握し、必要な産業振興策にまでタッチするということになります。世銀の政策と途上国政府の政策とが一致しないこともしばしば

で、この時点で要求されるのが先方の政策の基盤になる文化や価値観を理解し双方で納得できる方向を見出ししていくという外交的手腕なのです。

また日本の優れた中小企業政策を途上国に移植する場合、日本式のやり方を持って行ってもダメでその国の商慣習や文化に則った方策を意識しなければいけないことも痛感しました。どの国もそれぞれ特有の歴史、文化を持っていきます。その意味では「グローバル・スタンダード」とは何を意味するのかよく考えてみる事が必要だと思えます。

ところで英日間ですが、基本的には良好な友好関係が続いており、ミクロの部分では日常的な問題が起きることもありませんが、利益の衝突は全くと言って良いほどありません。こういう時こそ双方の協力関係を強化するチャンスです。そこで立ち上がったのが「アクション・ジャパン」という

プロジェクトで、二国間貿易投資促進を基本としつつ、この傘の下で英日が協力して途上国

のみならず第三国市場を開拓するという作業をやってきました。コモンウェルスやECを始めとする英国の太い外交パイプと日本の資本と技術を結合させて市場を拡大しようという試みで成果も出ています。今後もこれまでの延長として経済面に限らず、政治や外交、文化まで含めたアプローチを幅広く展開していくべきでしょう。(談)【T】